



1900年頃



1990年頃



現在

「ソウル清溪川再生」朴賛弼著 日韓同時出版記念

「清溪川写真・図面展覧会」

歴史と環境都市への挑戦

日時：2012年7月24日（火）～8月3日（金）

10時～17時（日曜日休館）

場所：駐日韓国大使館韓国文化院1F（四谷4丁目）

同時開催：「ソウル清溪川再生」セミナー

2012年7月28日（土）16時～17時30分

講師：朴賛弼（法政大学）

車中心の利便性ばかりを追求する近代の都市開発で蓋をされ、上に高速道路が架けられたソウルの象徴的な水の空間 清溪川が、再生への強い意志のもと、見事に清流を取り戻したドラマは我々に感動を与える。環境と歴史をベースとする21世紀の都市づくりにとって、輝く最高のモデルとなるのに違いない。

陣内秀信（法政大学教授）

共催

清溪川写真・図面展覧会実行委員会
法政大学エコ地域デザイン研究所

後援

駐日韓国大使館韓国文化院
韓国観光公社
日本民俗建築学会
法政大学デザイン工学部建築学科
法政大学建築学科同窓会

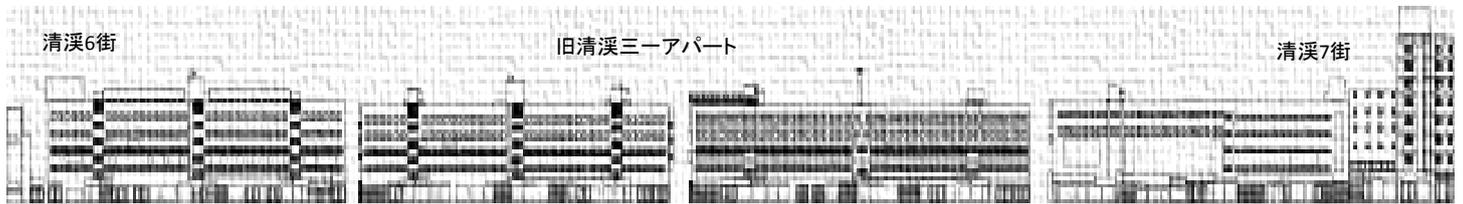
東亜日報社

清溪1街

清溪2街

三一ビル





歴史と環境都市への挑戦 「ソウル清溪川写真・図面展覧会」

ソウルでは、旧市街の中心部を貫く高速道路を撤去して川を復元する壮大なプロジェクトが今世紀はじめに提案され、世論の後押しを受けてあっという間に実現した。ソウル市民は便利さを捨てて環境の回復を選択したわけである。高速道路の建設が20世紀を象徴する事業だったとするなら、川の復元は21世紀を象徴する事業である。それは、理屈としては理解できても、実際に行うことは至難の業である。清溪川再生は、単なる川の再生事業ではなく、ソウル旧市街地の都市再生プロジェクトでもあった。ソウルにとって、見事に甦った清溪川にはいつも市民のにぎやかな声が響く憩いの空間になっており、市民たちの姿が絶えることがない。これほど成功をおさめた都市再開発事業はめずらしい。

出展概要

- パネル写真約100枚展示(キャプション入り)
- 清溪川の歴史、復元前と復元後の過程の流れを順序に展示
- 2004年当時の清溪川周辺の景観
- 清溪川周辺の北側約6km、南側6km、全長12kmのオリジナル立面図

ソウル清溪川写真・図面展覧会実行委員会

朴賛弼 (代表者・法政大学)
 小川格 (南風舎)
 川嶋勝 (鹿島出版会)
 姜海作 (韓国技文堂)
 牧野立平 (法政大学)
 千葉義尚 (法政大学)
 安藤照代 (法政大学建築同窓会)
 岡本眞 (法政大学建築同窓会)
 佐藤良一 (法政大学建築同窓会)
 望月久生 (法政大学建築同窓会)
 後藤真弓 (法政大学建築同窓会)
 小島建一 (法政大学建築同窓会)
 高橋敏男 (法政大学建築同窓会)
 白田隆雄 (法政大学建築同窓会)
 森隆男 (関西大学)
 野間晴雄 (関西大学)
 岸本章 (多摩美術大学)
 米澤敬 (工作舎)
 大平茂男 (日本民俗建築学会)
 桑野進 (日本民俗建築学会)
 佐志原圭子 (日本民俗建築学会)
 浜島憲治 (日本民俗建築学会)
 盧栄秀 (韓国FM学会)
 李在男 (韓国ハイン建築)
 孫壽範 (韓国DP I 72)



会場

駐日韓国大使館韓国文化院
 1FギャラリーMI
 〒160-0004 東京都新宿区四谷4-4-10
 東京メトロ丸の内線「四谷三丁目」駅
 1番出口より新宿方面徒歩3分